

次の文章と表、グラフを読んで、あとの問いに答えなさい。

日本では弥生時代以来、稲作がさかんに行われ①、米は長年にわたり日本人の主食でした。戦後になって、食生活の欧米化によって米の消費量が減り、稲作をめぐる環境は大きく変化②しています。

このような状況で生産者は、消費者の米離れを防ぐため、新たなブランド米③の開発を進めています。

農産物の生産額と割合 (2017年生産農業所得統計より)

品目	A	B	C	D	その他	合計
生産額	32522億円	24508億円	17357億円	8450億円	9905億円	92742億円
割合	35.1%	26.4%	18.7%	9.1%	10.7%	

※その他には麦・いも・豆・雑穀・工芸作物・花なども含む

(1) 表内のA~Dには、次のア~エのいずれかの農産物が入ります。1つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 果物 イ 野菜類 ウ 米 エ 畜産物

(2) 下線部①について、次のあ・いの稲作の作業に用いられる農業機械の名称をそれぞれ答えなさい。

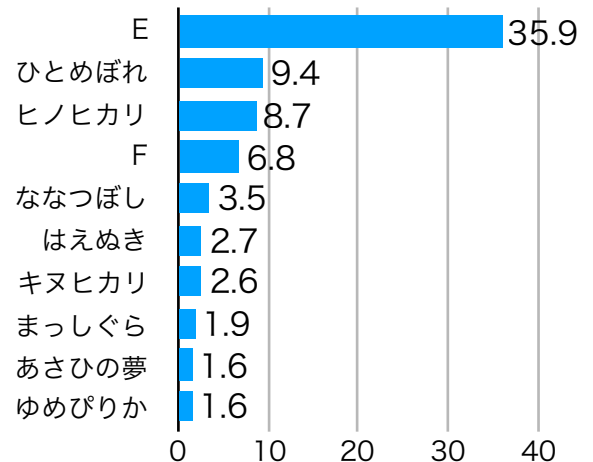
あ 田起こし・代かきに使われる機械

い 稲刈り・脱穀に使われる機械

(3) 下線部②について、政府が1970年代から2018年まで行っていた米の生産調整に関する政策を何というか答えなさい。

(4) 下線部③について、右のグラフのE、Fにあてはまる品種名を答えなさい。

品種別作付割合 (2018年)



(5) 九州地方を中心に生産されているブランド米の品種名をグラフから選び答えなさい。

(6) 品種別作付け割合5位の「ななつぼし」、10位の「ゆめぴりか」が主に生産されている都道府県名を答えなさい。

(1) A	(1) B	(1) C	(1) D
(2) あ		(2) い	
(3)	(4) E	(4) F	
(5)		(6)	

- (1) 農産物の生産額の割合が最も高いのは畜産です。次いで野菜が多く、米は3番目です。
- (2) 田起こし・代かきなど地面を耕すのに使う機械はトラクターとよばれます。稲刈り・脱穀など収穫作業に使う機械はコンバインとよばれます。
- (3) 米の生産調整として行われた政策を減反といいます。減反のために、転作奨励金が支払われていましたが2018年に減反政策は終了となりました。地面を掘り返す大陸と海洋の気温差により吹く季節風です。夏は南東から、冬は北西から季節風が日本に吹きます。
- (4) 米の品種別作付け割合1位となるのはコシヒカリです。新潟県を始め、富山県や茨城県でもさかんに生産されています。4位にはあきたこまちが入ります。順位を覚える必要はなく、表の中で有名なブランド米のうち何がなかを教えてください。
- (5) 熊本県や大分県など九州地方では、ヒノヒカリという品種が主に栽培されています。かつては食味に劣るとされていた九州産米ですが、現在ヒノヒカリはコシヒカリと同等の特Aランクに位置づけられ、全国3位の作付け割合となっています。
- (5) ななつぼし、ゆめぴりかともに北海道のブランド米です。道産米では数年前まできらら397がランクインしていましたが、近年はゆめぴりかが上位に入っています。

(1) A エ	(1) B ウ	(1) C イ	(1) D ア
(2) あ トラクター	(2) い コンバイン		
(3) 減反	(4) E コシヒカリ	(4) F あきたこまち	
(5) ヒノヒカリ	(6) 北海道		